

全国学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科では、知識・技能の観点において、全国平均を上回っており、学習の基礎・基本は概ね身に付いていると言える。 ○算数科では、数と計算領域において、グラフの読み取りや小数・分数の計算の仕方などについて理解できている。 ○理科では、金属の性質や乾電池のつなぎ方などについて理解できている。 ○三教科ともに、無回答率が低く、学習に粘り強く取り組み姿勢が身に付いていることが分かる。 <課題> ▲国語科では、情報量が多い問題を読んで、整理して考えることが難しい。また、条件に合わせて作文を書く問題での正答率が低い傾向がある。 ▲算数科においては、図形や数直線の読み取り等、基本的な問題での正答率が低い傾向にある。また、条件を満たしながら理由を説明することが難しい。 ▲理科においては、中学年の学習内容を問われる問題も多く、学年を遡っての復習が必要である。	<成果> ○国語・算数が好き・大切だと思うと回答した児童の割合が高く、学習に対して意欲的である。 ○学習の中でタブレットなどのICT機器を活用するよさを感じている児童が多い。 ○平日・休日ともに1時間以上学習をしている児童が多く、家庭学習の習慣が身に付いている。 <課題> ▲日常生活において、新聞を読む機会が少ない児童が全体の9割程度いる。授業の中でも経験を確保していく必要がある。

岡山県学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科・算数科ともに、正答率が全国・県平均を上回っている。無回答率も低く、最後の問題まで取り組みることができている。 ○国語科では、話を聞き取ったり、メモをとったりして内容を把握することがよくできている。文章の内容を読み取る問題での正答率も高かった。 ○算数科では、基本的な四則計算や図形を扱う問題の正答率が高かった。 <課題> ▲国語科では、ことわざや修飾語の使い方等、言葉を正しく扱う問題での正答率が低い。また、二つ以上の条件を満たして作文する問題では、二つ目以降の条件を満たすことができにくい傾向がある。 ▲算数科では、基本的な四則計算の中でも特に位をそろえる必要のあるたし算やひき算の正答率が低い傾向があった。何倍かを求める割合の問題がどの学年	<成果> ○国語科、算数科の学習が分かるかという設問について肯定的な回答をしている児童の割合が高い。 ○学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているという設問について、肯定的な回答をしている児童が多く、友達と繋がりをもちながら学ぶことができている。 ○朝食をきちんととる児童の割合が高く、基本的な生活習慣が整っている。 <課題> ▲学校の授業以外での読書の経験が少なく、1日10分未満の児童の割合は約半数である。 ▲学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合

でも比較的lowく、習熟が必要だと感じる。また、条件を満たしながら方法や理由を説明することが難しい。	はやや少ない。
--	---------

改 善 策
学 校 で の 取 組
①「六小っ子 学習の約束」を基本にした授業づくり ・学習の準備 ・姿勢 ・話の聞き方 ・発表の仕方 ・学習用具など ②国語科・算数科を研究教科とした「自ら考えをもつ（主体的に考える）力」「協働して学びを深める力」の育成 ・主体的な学びのために・・・児童が自ら課題を設定し、最適な学び方や内容を選択できるような場を工夫し、教師はそれを適切に支援していく。 ・協働して学びを深めるために・・・ペアやグループでの話し合いを行う際は、自分の考えを伝え合うだけでなく、他者の考えと比べ、学びを広げる意識をもつことができるようにする。 ③基礎学力の定着のための取組 ・朝自習の時間に各学年でプリント（国・算）に取り組んだり、読書をしたりすることで、基礎学力の定着を図る。 ・月曜日1校時を「ぐんぐんタイム」とし、国語科、算数科の基礎・基本の習熟に充てる。 ・年間5回のメディアコントロールがんばりカードに取り組ませることで、基本的な生活習慣を整えられるようにし、家庭学習の習慣が身に付くようにする。 ・家庭学習の手引きを示したり、毎月きらきらノート（自主学習）だよりを発行したりすることで、自主学習に自信をもって取り組むことができるようにする。 ・読解力を養うため、全校で週末読書に取り組む。音読カードにも明記する。 ④児童理解に基づく学級経営の推進 ・教育相談による、不安や悩みの早期解消・早期対応を行う。 ・icheckの結果分析による児童理解を行う。
あい・かがた学園 での 取 組
○カリキュラム「あい・かがた学」に沿って、中学校区で一貫した指導を行い、基礎学力の定着、学び合い活動の充実を図り、自立した学習者を育成する。 ○「ほめ言葉のシャワー」の取組を通して、互いに認め合う温かい人間関係作りに努めるとともに自己肯定感を高めることができるようにする。 ○各校の授業参観や情報交換の機会を設け、園・小・中学校のスムーズな接続を図る。
家庭・地域へのお願い
○「家庭学習のしおり」「きらきら（自主学習）ノートだより」を活用し、家庭学習の約束を守りながら宿題・自主学習に取り組むよう、励ましをお願いします。 ○家庭でのメディア使用のルールを話し合い、メディアとのよりよい付き合い方について話をしてください。 ○登下校の様子やあいさつなど、児童の日々の様子で気付かれたことがあれば、ぜひ学校までお知らせください。地域での児童のよい行いも教えてくださると大変励みになります。